

平成22年5月27日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19330215
 研究課題名（和文）通常学級へのコンサルテーション～軽度発達障害児及び健常児への教育的効果
 研究課題名（英文）Consultation for regular classes: educational effects on students with mild developmental disabilities and typically developing students

研究代表者
 藤井 茂樹 (FUJII SHIGEKI)
 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所・教育相談部・総括研究員
 研究者番号：80443331

研究成果の概要（和文）：通常学級へのコンサルテーションによって、授業及び学級経営に学習のユニバーサルデザインの視点を導入した。教員の意識及び授業技術の変容とそれに伴う子どもの変容のプロセスを質的研究の手法を用いて分析した。本研究がモデルとして提案した、すべての子どもにとって「わかりやすい授業」と「居心地のよい学級づくり」からスタートする特別支援教育の試みは、現在学校が抱えている課題を解決する第1歩であることが検証された。

研究成果の概要（英文）：Concepts of Universal Design for Learning were introduced into lessons and class-management of regular classes through consultation. Process of changes in teachers' perspectives and teaching skills and following changes in students were analyzed by taking qualitative study approach. This study proposed a model that special needs education should start with "lessons that every student can understand" and "classrooms that every student feel comfortable". It is verified that the model is the first step in solving complex issues in current schools.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2008年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2009年度	2,100,000	630,000	2,730,000
年度			
年度			
総計	6,600,000	1,980,000	8,580,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：学習困難、学習のユニバーサルデザイン

1. 研究開始当初の背景

2006年8月、国際連合の特別委員会において障害者権利条約が基本的に合意された。障害のある児童生徒の完全なインクルージ

ョンを目標としているその条例案を、いかに日本の特別支援教育において実現していくかが、今後の大きな課題となりつつある。2007年4月に導入された特別支援教育では、

通常学級に在籍する6.3%のLD、ADHD、高機能自閉症などの軽度発達障害児の指導について体制づくりが求められている。しかし、教育現場の状況に照らし合わせると、特別支援対象児童の個別対応の在り方は提案されているが、それを40人学級で他の子ども達の活動と平行してどのように実施するかは、ほとんど提案されていない。実際の教室には、軽度発達障害児のみでなく、不登校、いじめを含めた情緒的な問題や、家庭などの環境的問題など様々な支援を必要とする子どもが多数存在し、対応が求められている。そこに特別支援が必要な子どもを積極的に受け入れて一定の学級経営を維持していくためには、特別支援の子どもへの対応を含めた新たな学級経営のモデルが必要である。通常学級における発達障害児の支援は「配慮」の域を出ず、対象児がほとんどの時間を過ごす教科学習の中での「指導」についてほとんど究明されていない。

アメリカ合衆国においては、一人も落ちこぼれを出さない教育法(2004)によって、州のスタンダードカリキュラムとスタンダードテストの導入による障害児を含めた学校ぐるみの学力向上への取り組みが行われている。通常学級において、学習のユニバーサルデザイン化による教育支援の様々な方法が提唱され、それが障害のある子どものみならず学級の多くの子どものために有効であることが証明されている(Wehmeyerら、2002)。

2. 研究の目的

本研究の目的は、コンサルテーションを通して学習のユニバーサルデザインの視点を通常学級に導入し、「すべての子どもにわかりやすい授業」「すべての子どもにとって居心地のよい学級づくり」を目指すことを様々な角度から質的に分析し、教員及び子どもにもたらす効果と課題について検証することである。本研究によって中心的に検証・検討すべき事項として、以下の3点をあげる。

- ① 教員の授業・学級経営における行動や意識への影響
- ② 学級における配慮を要する子ども、気になる子ども、その他の子どもの行動・意識・学習等への影響
- ③ 学習のユニバーサルデザインの視点の導入の促進、及び障害に関わる要因と課題

3. 研究の方法

本研究では研究の方法論(アプローチ)として、①質的ケーススタディ、及び②参加型アクション・リサーチを採り入れる。

〈研究1〉授業、及び学級経営についての自己チェックリストの開発と活用の仕方の検討

授業及び学級経営について学習のユニバーサルデザインの視点を通常学級に導入するための自己チェックリストを開発し、その活用の仕方について検討することを目的としている。

- (1) 文献研究等をベースに学習のユニバーサルデザインの視点を採り入れたチェックリスト原案作成
- (2) 通常学校の教員で構成されるフォーカスグループによるチェックリスト原案の検討
- (3) チェックリストの活用の仕方についての検討

〈研究2〉自己チェックリスト及びコンサルテーションを活用した授業改善と学級づくり

研究者が教員へのコンサルテーションを行い、自己チェックリストを活用しながら学習のユニバーサルデザインを通常学級に導入するプロセスを分析し、その有効性と課題について検証することを目的としている。

- (1) コンサルテーション対象の学級(教員)の選定
 - (2) 教員による自己チェックリスト記入と研究者との協議による教員の目標設定
 - (3) コンサルテーションの期間(2ヶ月)における教員の目標を目指した授業のモニタリングと研究者によるコンサルテーションの実施
 - (4) コンサルテーションのプロセスに関する質的データの収集及び分析
- 以上を、3ケースの学級及び教員(チーム)について、継続的に実施する。

〈研究3〉巡回相談等のシステムを用いて、巡回相談担当者が教員に対して自己チェックリストを活用したコンサルテーションを行い、そのプロセスを分析する。

研究2で得られた知見をベースとしながらも、コンサルテーションの方法や内容については研究協力者である巡回相談員に委ねる。

現存する特別支援教育をサポートする仕組みを用いて、自己チェックリストを活用したコンサルテーションを行った場合の有効性と課題についての検証を行うことを目的としている。

- (1) 校内に設置されている通級指導教室担当者によるコンサルテーション
- (2) 市の巡回相談員によるコンサルテーション

4. 研究成果

(1) 教員の授業・学級経営におけるスタイルや意識への影響

- ① 教員の授業スタイルや意識の変化は、コンサルテーション期間中は、全てのケースでは変容が見られたが、1ケースのみが期間後にも継続することが難しかった。
- ② コンサルテーションの経過の中で、教員の授業スタイルへの影響の違いは、学年の違い、集団を構成する子どもの特質の違い、元々持っている教員の授業スタイルの違いが考えられた。
- ③ 教員が共通して重要と考えたことは、授業の土台づくりの安定、評価と一体になった多様な目標、子どものニーズにあった教材の工夫、子どもが自分を知ることが大事にした選択、仲間意識を育てる工夫であった。

(2) 学級における配慮を要する子ども、気になる子ども、その他の子どもの行動・意識・学習への影響

- ① 教員の授業スタイルや意識の変容が見られたケースにおいては、学級の子どもの行動や意識、学習への影響が観察された。例えば、選択を導入してから、子ども達のやる気が出てきたという教員の印象を裏付ける子ども達の積極的な行動が観察されている。
- ② 1年生のケースでは、子どもの選択を取り入れたことにより、1年生でも自分の力や自分に必要なものを知っているというメタ認知の力の育ちを見いだしている。
- ③ 配慮を要する子どもの変容について、学習面で「わかる」ことが、プラスの行動面や社会性の面の変化につながっていくことが観察された。
- ④ 教員の授業や関わりのスタイルの変化と、学級や人間関係が安定していったプロセスがリンクしていることも観察された。

(3) 学習のユニバーサルデザインの視点の導入の促進及び阻害に関わる要因

コンサルテーションの方法や自己チェックリストの活用の仕方が、その教員なりの自己省察をサポートできたかどうかの違いによって、学習のユニバーサルデザインの視点の導入に差がでると考えられた。この導入の課題は、集団学習における個別の目標や支援の導入、学校全体での取り組みであり、これらの点について考察する。

① 教員の自己省察をサポートするコンサルテーションの在り方

コンサルタントが教員の経験や自己省察の状況をどれだけの確に把握し、どのような方法でコンサルテーションを行うかで、教員の自己省察を適切にサポートできるかどう

かが決まる。この要因が今回の学習のユニバーサルデザインの視点の導入に大きく影響を及ぼすと考えられた。

② 教員の自己省察をサポートする自己チェックリストの活用

研究で開発した自己チェックリストは、教員のセルフマネジメントのツールではなく、コンサルテーションと組み合わせて活用した。

GAS (Goal Attainment Scale) のアプローチによって、教員自身が授業技術に関する目標に向かうステップを明確に意識できるようにし、自分が何に取り組みばよいのかという内容を具体化したことは、コンサルティである多くの教員は「やりやすかった」と答えた。しかし、コンサルタントである巡回相談員からは、「GASのステップの組み立て方が難しい」との声もあり、広く普及するためには、コンサルテーションを行う担当者へのステップを組むための解説やトレーニングが必要である。

③ 集団学習における個別の目標や支援の導入

集団学習を基本とする日本の学校文化においても、様々な学習スタイルや理解のスピードの違いに対応して、必要な個別の支援や理解の早い子どもへの対応ができる授業スタイルを確立することが可能であることが検証できた。

④ 学校全体での取り組み

新しい取り組みが学校全体でサポートされているか、また、学校全体に波及するかは大きな課題である。学校全体で取り組むモデルの導入に意欲的な校長のリーダーシップの元での実践は、学校全体のサポートシステムも構築しやすく、少しずつ全ての教員に波及していった。このモデルに事前の知識のない校長の元での実践においても、「特別支援教育は特別なものではなく、個々の子に応じた教育であり、個別の指導計画はクラス全員の子どもにあって当然である」と校長は感想を述べている。また、巡回相談員によるコンサルテーションの取り組みでは、校長の認識が「特別支援教育は特別な支援の必要な子どもだけの特別な対応」から「学級にいる全ての子ども達の満足を図ることから始めることである」に変わっていった。

全ての子どもにとって「わかりやすい授業」と「居心地のよい学級づくり」からスタートする特別支援教育の試みは、今、学校が抱えている課題を解決するための第一歩であることが、この研究によって検証できたと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 齊藤由美子 通常のカリキュラムへのアクセスとそこでの向上—アメリカ合衆国における障害のある子どものカリキュラムについての概念の変遷と現在の取り組み—
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 世界の特別支援教育 (24) 2010、53—62
- ② 齊藤由美子、藤井茂樹、米国における教育のシステムチェンジの試み～カリフォルニア州ラベンズウッドシティ学区における「学校全体で取り組むモデルSAM」の実践～、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 世界の特別支援教育 (23) 2009、57—69

[学会発表] (計4件)

- ① 齊藤由美子、藤井茂樹、通常学級へのコンサルテーション: 発達障害児及び健常児への教育的効果 (3) ～すべての子どもにとって居心地のよい学級づくりをめざす「学級経営についての自己チェックリスト」の開発～、日本LD学会第18回大会発表論文集、2009、344
- ② 藤井茂樹、齊藤由美子、通常学級へのコンサルテーション: 発達障害児及び健常児への教育的効果 (4) ～「授業についての自己チェックリスト」と「学級経営についての自己チェックリスト」の活用～日本LD学会第18回大会発表論文集、2009、355
- ③ 齊藤由美子、藤井茂樹、通常学級へのコンサルテーション: 発達障害児及び健常児への教育的効果 (1) ～学習のユニバーサルデザイン導入に向けての授業チェックリスト等の作成と活用～、日本LD学会第17回大会発表論文集、2008、378—379
- ④ 藤井茂樹、齊藤由美子、通常学級へのコンサルテーション: 発達障害児及び健常児への教育的効果 (2) ～授業についてのチェックリストの活用と教師支援～、日本LD学会第17回大会発表論文集、2008、380—381

[図書] (1件)

- ① 藤井茂樹、授業改善と学級経営の視点から進める特別支援教育～学習のユニバーサルデザイン～、東洋館出版社、授業のユニバーサルデザイン研究会編著、2010、118—123

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井 茂樹 (FUJII SHIGEKI)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 教育相談部・総括研究員

研究者番号: 80443331

(2) 研究分担者

齊藤 由美子 (SAITOU YUMIKO)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 教育研修情報部・研究員

研究者番号: 90443332